



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

1月号—No.273

2018.1.1

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【柘榴色(ざくろいろ)】柘榴の実のような紅味を帯びた深い赤のこと。

柘榴の花のような橙色を指すこともある。柘榴は果実に種子が多いことから子孫繁栄の象徴とされる。あの独特の形状、血のような色が想像力を刺激するのだろう、お釈迦様が鬼神に与えて子どもを食べるのを止めさせたとか、女神ジュノーの好物だとか、血に似た果汁に魔力があるとか、キリストの受難の象徴だとか、柘榴に魅入られた美貌の女流画家(池田理代子の漫画)とか、エピソードがたくさんある。

## ●目次 / contents

地域創造理事長 新年のご挨拶.....2

今月のニュース.....4

第18回「地域伝統芸能まつり」のご案内  
平成29年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設決定

今月の情報.....7

地域通信

制作基礎知識シリーズ Vol.42.....10

地域振興におけるクラウドファンディングの可能性

今月のレポート.....12

神奈川県横須賀市

横須賀芸術劇場 よこすか能 観世喜正プロデュース 蠟燭能「唐船」

# あけましておめでとうございます

平成30(2018)年1月1日  
一般財団法人地域創造

地域の皆様とともに  
創造性豊かな地域づくりを目指してまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 2018年1月～3月 地域創造事業スケジュール

当財団では年度末まで、全国各地でさまざまな事業を展開しております。

### 1月

- 公共ホール音楽活性化事業  
埼玉県上里町/11日～13日  
熊本県菊陽町/18日～20日  
茨城県鉾田市/19日～21日  
大阪府箕面市/19日～21日  
福岡県太宰府市/25日～27日
- リージョナルシアター事業  
富山県高岡市/31日～2月3日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業  
兵庫県豊岡市(Bプログラム)/11日～14日、18日～22日  
山梨県甲斐市(Bプログラム)/26日～29日
- 平成29年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式(東京都・ランドアーク半蔵門/19日)
- 公立美術館共同巡回展開催助成事業「三六〇度の世界 松本哲男」展(高崎市/～28日)

### 2月

- リージョナルシアター事業  
京都府舞鶴市/1日～4日、7日～10日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業  
山梨県甲斐市(Bプログラム)/1日～5日
- 公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業  
ガラコンサート(愛知県・名古屋市 三井住友海上しらかわホール/17日)
- 邦楽地域活性化事業 ガラコンサート(熊本県・熊本市男女共同参画センター「はあもにい」/4日)
- ステージラボ横浜セッション(横浜みなとみらいホール/20日～23日)
- 第18回地域伝統芸能まつり(東京都・NHKホール/25日)

### 3月

- 公共ホール音楽活性化事業  
埼玉県秩父市/1日～3日  
富山県南砺市/8日～10日  
広島県坂町/15日～17日
- 雑誌『地域創造』第43号発行(25日)

## ～新年のご挨拶～

一般財団法人地域創造理事長 板倉敏和

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当財団の事業にご支援・ご協力をいただき、関係者の皆様には心から御礼申し上げます。

地域創造が設立されて23年。地方公共団体の皆様の要請に応え、これまでさまざまな事業を展開してまいりました。中でも、当財団の基幹的事業の一つである「アウトリーチ事業」は、公共ホール音楽活性化事業が開始してからちょうど20年の節目を迎えます。今では、このアウトリーチ事業も定着し、全国の多くのホールでさまざまな形で活用され、効果を発揮しているところ です。

私も理事長に就任してからこれまで、アーティストと身近に触れ合い、生き生きとしている子どもたちや住民の方々と出会いました。こうした地域の皆さんの姿を励みに、地方公共団体の共同組織としてどのような支援ができるのかを考えながら、事業を進めてまいりたいと考えています。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会まであと2年余りとなり、多くの関連スポーツイベントが開催されるのに合わせて、各地でさまざまな文化プログラムが計画・実施されることと思います。こうした地域の取り組みに、地域創造としてもお手伝いをしたいと考えておりますので、皆様のご意見・ご提案を引き続きお聞かせいただければと思っています。

今後とも、地方が自ら考えていく元気で創造性豊かな地域づくりを支援してまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2018年1月

●「地域伝統芸能まつり」

# 18回目の今年は「鬼～山に棲む、里に棲む、心に棲む～」をテーマに開催

第18回  
地域伝統芸能まつり



平成28年度 第17回地域伝統芸能まつり フィナーレの様子

地域創造では、地域の重要な資源である地域伝統芸能の保存・継承・活用を支援しています。なかでも、日本各地域の伝統芸能と古典芸能がNHKホールに一堂に会し、個性豊かなさまざまな芸能が歴史的・地域的な解説とともに披露される「地域伝統芸能まつり」は、日本の芸能の素晴らしさや地域の伝統の重みを再認識する機会として高く評価されています。

平成12年度から毎年開催されてきたこのまつりでは、これまで、全国47都道府県から176演目が披露されました。

第18回となる今年のテーマは、「鬼～山に棲む、里に棲む、心に棲む～」。テーマに沿った、日本各地域の伝統芸能7演目と古典芸能1演目をご紹介します。

◎出演予定地域・演目

県	市／演目
千葉県 (4年ぶり6回目)	野田市／野田のつく舞
新潟県 (3年ぶり7回目)	佐渡市／鬼太鼓
高知県 (9年ぶり2回目)	梶原町／津野山神楽
兵庫県 (10年ぶり4回目)	姫路市／中野獅子舞
岩手県 (2年連続10回目)	北上市／鬼剣舞
鹿児島県 (7年ぶり7回目)	日置市／伊作太鼓踊
島根県 (4年ぶり6回目)	浜田市／石見神楽

[日時]平成30年2月25日(日)  
午後2時30分開演(午後1時30分開場)  
[会場]NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)  
[入場]無料  
[主催]地域伝統芸能まつり実行委員会  
一般財団法人地域創造  
[後援]総務省、文化庁、観光庁、NHK  
[協力]日通旅行株式会社

◎応募方法

平成30年1月31日(水)必着

※応募多数の場合は抽選。発表は本人に直接通知します。

1. インターネット(パソコン、携帯電話等)募集サイトからご応募ください。

<http://www.nhk-p.co.jp/matsuri18/>

2. はがき

往復はがきに①～⑦を明記の上、下記事務局までお送りください。

- ①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年代 ⑤性別
- ⑥電話番号 ⑦入場希望者数(はがき1枚につき2名まで)

[応募先]

〒150-0047 東京都渋谷区神山町5-5 NRビル5F  
「地域伝統芸能まつり」観覧応募事務局

※ご応募いただいた個人情報は、本事業の抽選、当・落選告知および個人を特定しない統計資料の作成の目的のみ使用します。また、事前の承諾なく個人情報を業務委託先以外の第三者に開示・漏洩しません。

◎お問い合わせ ハローダイヤル  
Tel. 03-5777-8600(全日8:00～22:00)

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ  
総務部 山居  
Tel. 03-5573-4056

## ▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

### ●第18回地域伝統芸能まつり プログラム紹介(予定) \*演目は変更される場合もありますのでご了承ください。

#### の だ まい 野田のつく舞 (千葉県野田市)



雨蛙の面を被った演者が、柱や樽の上、柱から張った綱の上などで妙技を披露します。平成5年に千葉県の『無形民俗文化財』に指定され、平成11年には国の『選択無形民俗文化財』となりました。

「野田のつく舞」は、7月中旬に行われる、野田市野田の三ヶ町夏まつり(上町、仲町、下町)の中日に演じられる民俗芸能で、水神信仰に基づく雨乞の神事といわれています。先端に一斗樽をかぶせた、高さ14.5メートルの白木綿で巻かれた柱を立てて、「ジュウジロウサン」と呼ばれる白装束に

#### つ の やま かぐら 津野山神楽 (高知県梶原町)



ら選ばれた青年らにより伝承されることになりました。神楽は18の節から成り、リズムカルな囃子に合わせて舞われる優美荘重さが魅力です。昭和55(1980)年1月、土佐の神楽の一つとして、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

津野山神楽は、延喜13(913)年に藤原経高が津野山郷に入国した際、伊豆の国より三島神社を勧請し守護神として祀られたときから、代々の神職によって歌い舞い継がれたものと伝えられています。神楽習得者の減少により一時衰退しますが、その後神楽復興の気運が起り、村内各地から

#### おにけんばい 鬼剣舞 (岩手県北上市)



鬼剣舞は、北上市とその周辺に伝わる民俗芸能で、盆の精霊供養のために踊る風流念仏踊りの一種です。威嚇的な鬼のような面(仏の化身)をつけ、勇壮に踊るところから「鬼剣舞」と呼ばれ親しまれています。その由来は、大宝年間(701~704年)に天下泰平を願い念仏を広めるために踊ったのが始まりとも、大同年間(806~810年)に大日如来の化身から悪霊退散・衆生済度の念仏踊りとして伝えられたのが始まりともいわれています。太刀や扇を使いながら毛ザイ(頭部)を激しく振り、大地を踏みしめながら華麗に踊ります。

#### いわみかぐら 石見神楽 (島根県浜田市)



て演舞する姿は、多くの観客を魅了します。地域の物語などを神楽化した社中ごとの創作神楽や、舞台演出を凝らしたステージ神楽も台頭しており、伝統芸能としては希な広がりを見せてきているのも石見神楽の特徴です。

島根県西部に位置する浜田市を中心とした石見地方で伝承されているのが「石見神楽」です。約500年前までには現在の原形が成立し、今日では例祭への奉納や各種催事、祝事の場での披露など、活動は多岐にわたります。演目は30種類以上に上り、速いテンポで豪華絢爛な衣裳を身に纏

#### おんてこ 鬼太鼓 (新潟県佐渡市)



折って神社に奉納するほか、集落内約150軒、一軒一軒を早朝から深夜まで悪魔を払い、家内安全を祈って巡ります。

江戸時代初めに始まったとされる鬼太鼓は、悪魔を払い、商売繁盛、五穀豊穡を祈って神社の祭礼に奉納される佐渡独自の伝統芸能です。佐渡島内には120を超える各集落で、それぞれ独特の様式で伝承されています。能の舞にルーツを持ち、面は能面のシカミ面とベシミ面を使用し、洗練された太鼓と独特の振り付け、そして獅子が加わるのが特徴です。毎年4月15日の神社の祭礼に、五穀豊穡を

#### なかのししまい 中野獅子舞 (兵庫県姫路市)



#### いざくたいごどり 伊作太鼓踊 (鹿児島県日置市)



胸に太鼓をつけて踊ります。平打ちの輪の中で踊る「中打ち」は、華やかで可愛い姿の子どもたちが鉦や小太鼓を鳴らします。太鼓の音で稲の害虫を追い払う「虫送り」の意味や、豊作祈願の踊りとも伝えられています。鹿児島県無形民俗文化財。

中野獅子舞は、姫路市船津町中野地区に古くから伝わる奉納神事で、記録によると安土桃山時代から行われています。雄・雌二頭が勇壮に、しなやかに乱舞する獅子舞全11曲が今に伝承され、中でも最後に演じられる「梯子」は、天上に雨乞いを祈願する舞で、三間の梯子2本(高さ約5メートル)を組み合わせて舞われます。雄獅子が宮参りの舞を行い、猿とひょっとこに釣られて梯子を登っていき、頂上に昇ると周囲を睥睨して、釣り子と共に軽業を演じます。そして梯子を下っていくところも雄獅子の技の見せどころです。

#### あだちがはら 能『安達原』短縮版

熊野の山伏・阿闍梨祐慶一行は修行の途中、陸奥・安達原(現在の福島県二本松市)で一夜の宿を借ります。主の女は、梓林輪(糸車)で糸を巻き取る様子を見せ、この糸巻きのように輪廻を繰り返す人の世を嘆きます。やがて女は「決して閨(寢室)を覗かないように」と言い残し、薪を取りに出掛けます。閨の中がどうしても気になる能力(山伏の従者)が山伏の寝たのを見計らい覗くと、そこには山のような人の死骸が。ここは安達原の鬼のすみかであったかと逃げ出す一行を、正体を現した鬼女が追いかけます。激しい攻防の末、鬼女は祈り伏せられ姿を消すのでした。  
[出演]大槻文蔵ほか

古典芸能

## ●「地域創造大賞(総務大臣賞)」発表

平成29年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設が決定しました。

今年度で14回目となる地域創造大賞は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰するものであり、その活動を全国に広く紹介することによってさらなる活性化を図ることを目的としています。

◎平成29年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式  
[日時]2018年1月19日(金)14:00～  
[会場]グランドアーク半蔵門

北上市文化交流センター さくらホール

岩手県北上市

### “まちの文化広場”として地域に活力

ガラス張りの公園のような大空間に、ホール、離れのように点在する練習室等があるユニークな複合文化施設。日常生活の中で遊べる施設を目指し、アートNPO法人と連携して運営。市民の文化活動拠点となるとともに、地元演奏家による音楽会、子どもの舞台芸術体験事業など育成にも力を入れ、まちの文化広場として地域に活力をもたらした。



[運営]一般財団法人北上市文化創造  
[開館]2003年

中新田パッサホール

宮城県加美町

### “クラシック音楽による地域再生”を推進

旧・中新田町が設置したパイプオルガンを備えた日本初の町営クラシック専用ホール。合併した新町による「音楽と福祉のまちづくり」の拠点として再出発し、音楽専門学校を誘致するとともに、市民オーケストラの育成、無料のサタデーモーニングコンサート、幼稚園・小中学校へのアウトリーチなど、クラシック音楽による地域再生を推進した。



[運営]加美町  
[開館]1981年

大泉町文化むら

群馬県大泉町

### “まちの文化広場”として地域に活力

大ホール棟、展示ホール棟、資料館等で構成された複合文化施設。ヴァイオリニストの古澤巖が町民と交流する看板音楽会を25年継続。楽器を無償貸与するヴァイオリン教室、各種体験講座、ダンス団体等の発表会など町民の文化活動を支援し、ボランティアを育成するなど、まちの文化広場として地域に活力をもたらした。



[運営]公益財団法人大泉町スポーツ文化振興事業団  
[開館]1989年

東京都美術館

東京都

### “すべての人に開かれた美術館”として新境地

東京府美術館として大正15年に開館した日本初の公立美術館。2012年の大規模改修に伴い事業をリニューアル。“すべての人に開かれた美術館”としてアートの入口になるプログラムに力を入れ、休館日を活用した障がい者のための鑑賞会、アート・コミュニケータによる「とびらプロジェクト」など、美術館の新たなあり方を提示した。



[運営]公益財団法人東京都歴史文化財団  
[開館]1926年

©田邊 剛

大田区民プラザ

東京都大田区

### 文化による“新しい絆の育成”を支援

区民のための駅前複合施設。大都市圏にありながら区民に身近な施設として、落語、ジャズ、映画の定期鑑賞会を開催。また、地元劇団との連携により公演やワークショップなど演劇に親しむ「下丸子演劇ぷろじえくと」を立ち上げ。地域が一体となり劇場版おぼけ屋敷や映画制作に取り組むなど、文化による新しい絆の育成を支援した。



[運営]公益財団法人大田区文化振興協会  
[開館]1987年

八尾市文化会館(プリズムホール)

大阪府八尾市

### “マネージメント力”で活力あるホール運営を実践

第2次芸術文化振興プランによる「芸術文化のあふれるまちづくり」の拠点施設。職業芸術団体と準フランチャイズ契約を結び、質の高い鑑賞事業と普及事業を展開。吹奏楽や河内音頭などの地域文化を振興するとともに、アートマネージメント人材の育成にも力を注ぎ、マネージメント力で活力あるホール運営を実践した。



[運営]公益財団法人八尾市文化振興事業団  
[開館]1988年

伊丹市立音楽ホール(伊丹アイフォニックホール)

兵庫県伊丹市

### 音楽による“多文化理解”に貢献

市民のための音楽広場。伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団、伊丹市吹奏楽団、伊丹市民混声合唱団、伊丹市少年少女合唱団、伊丹市民オペラの拠点。開館当初から音楽人類学の専門家とともに世界の民族音楽をコンサートや講座で紹介する「地球音楽プログラム」をプロデュースするなど、長年にわたり音楽による多文化理解に貢献した。



[運営]公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団/[開館]1991年

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

## 地域通信

### ●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

### ●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

### ●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願います。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 宇野・高澤

### ●2018年3月号情報締切 2月1日(木)

### ●2018年3月号掲載対象情報 2018年3月～5月に開催もしくは募集されるもの

### 地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- ◎公共ホール等の求人情報
- ◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.jafra.or.jp/>

### どうか北海道・東北

#### ●北海道岩見沢市

NPO法人はまなすアート&ミュージックプロダクション

〒068-0029 岩見沢市9条西4丁目1-1

Tel. 0126-22-4235 吉武裕二

<http://www.hamanasuart.com/>

#### 沢則行独り芝居「クリサシュ」/ 巨大人形劇「岩見沢人」 Season.4

2014年から継続して行っている市民参加型巨大人形劇「岩見沢人」の4回目。巨大人形は農耕馬・鉄道・稲穂など岩見沢の歴史に欠かせないものをモチーフとし市民がつくり上げる。演出・総監督を小樽市出身の人形劇作家・沢則行が、演奏・音楽監督を札幌市出身のギタリスト・山木将平が務める。今回はホールならではの演出効果を活かした初めての室内公演となるほか、沢則行の新作公演も併せて開催される。

[日程] 1月21日

[会場] 岩見沢市民会館



前回の巨大人形劇「岩見沢人」(2016年9月/岩見沢駅東市民広場)

#### ●北海道倶知安町

小川原脩記念美術館  
〒044-0006 倶知安町北6条東7丁目1

Tel. 0136-21-4141 沼田絵美

<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>

#### 徳丸晋 写真展

#### 水面 — minamo —

倶知安町の豊かな自然を象徴

する半月湖の水面に魅了され、何度も足を運び同じ場所で撮り続けている地元在住の写真家・徳丸晋の展覧会。周囲の情景と風によって生み出される色彩鮮やかな波紋が、自然の持つ波動とエネルギーを感じさせる。独自の視点で水面をとらえた14点を展示。

[日程] 2017年12月2日～2月4日

[会場] 小川原脩記念美術館

#### ●宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館

〒985-0052 塩竈市本町8-1

Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加

<http://sugimurajun.shiomo.jp/>

#### 生誕110年 杉村惇作品展 — 塩竈時代を中心に

洋画家・杉村惇の生誕110年を記念し、同館所蔵作品から常設展では未公開となっている大作群の一部と、杉村家所蔵の色紙を展示する。静物画を得意とし、“静物学者”という定評を得たその形成期にあたる塩竈時代の重厚な油彩画を楽しめる。

[日程] 2017年11月18日～1月21日

[会場] 塩竈市杉村惇美術館

#### ●秋田県横手市

秋田県立近代美術館

〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46

Tel. 0182-33-8855 鈴木京

[http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public\\_html/5ftenji.html](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public_html/5ftenji.html)

#### 生誕100年 千葉禎介写真展

ほぼ独学で写真の技術を習得し、秋田の風俗や農村を題材に身近な人々を撮り続けた写真家・千葉禎介の生誕100年を記念した回顧展。“秋田派”と呼ばれた秋田在住のアマチュアカメラマンたちの作品も展示し、横手市に居住して当時の農村風景に見出した美を多くの作品に残した千葉の人物像にも迫る。

[日程] 2017年12月2日～1月31日

[会場] 秋田県立近代美術館



千葉禎介《休日》(1947年、ゼラチン・シルバー・プリント)

### 関東

#### ●埼玉県和光市

和光市民文化センター サンアゼリア

〒351-0192 和光市広沢1-5

Tel. 048-468-7771 塚田美穂

<https://www.sunazalea.or.jp/>

#### サンアゼリア吹奏楽フェスティバル 第6回ニューイヤーコンサートin和光～陸上自衛隊東部方面音楽隊が贈る吹奏楽の響きとともに～

陸上自衛隊東部方面音楽隊が演奏指導した市内の小・中・高校吹奏楽部や和光市民吹奏楽団有志など7つの団体が、集大成として共演コンサートを行う。曲目は『トリストレーザ』『薔薇の謝肉祭』など。さまざまな世代やプロの奏者との交流を促し、吹奏楽を通して地域文化の振興と次代の文化芸術の担い手育成を図る。

[日程] 1月14日

[会場] 和光市民文化センター  
サンアゼリア

#### ●千葉県習志野市

習志野文化ホール

〒275-0026 習志野市谷津1-16-1

Tel. 047-479-1212 秋山・深野

<http://narabunh.jp/>

#### “おらが村のオーケストラ”結成! 習志野シンフォニエッタ千葉 プレ・コンサート

音楽教育が盛んで、内外で活躍する大勢の音楽家を輩出す

る習志野の地で、「良い音楽で、地元へ恩返しをしよう!」という同市在住のクラリネット奏者・横川晴児の呼びかけの下、習志野市にゆかりのあるメンバーが集結、習志野シンフォニエッタ千葉が結成される。2019年の本格的な活動開始を前にプレコンサートを開催。

[日程] 1月12日

[会場] 習志野文化ホール

#### ●東京都渋谷区

渋谷区文化総合センター大和田  
〒150-0031 渋谷区桜丘町23-21  
Tel. 03-3464-3251 瀬川美保  
<http://www.shibu-cul.jp/>

#### 大和田レインボウ・プロジェクト さくらホールニューイヤージャズ コンサート2018

子どもに本格的な音楽体験・発表の場を提供しようと2014年にスタートした事業。ジャズピアニストとして今最も輝いている山中千尋をプロジェクトリーダーに引き、管楽器を学ぶ小学生～高校生が、3カ月のレッスンを経て山中千尋トリオと共演。今回はポピュラー音楽とクラシック音楽の両面で活躍し、数多くの作品を作曲したジョージ・ガーシュウインの名曲に挑戦する。

[日程] 1月3日

[会場] 渋谷区文化総合センター大和田

#### ●東京都三鷹市

三鷹市スポーツと文化財団  
〒181-0012 三鷹市上連雀6-12-14  
Tel. 0422-47-9100 齊藤久美子  
<http://mitaka-sportsandculture.or.jp/geibun/>

#### ニューイヤークラリネット・ファミリーコンサート2018「展示会の絵」

三鷹に音楽の大好きな子どもが増えてほしいという思いの下、スタートして13年目を迎える「訪問演奏」の参加アーティスト

トによる恒例のガラコンサート。昨夏行った音楽&図工のワークショップから生まれた250点もの子どもたちの絵画作品をホールのスクリーンに投影し、見て、聴いて、想像の翼を広げて音楽の世界を体感する演奏会が行われる。

[日程] 1月20日、21日

[会場] 三鷹市芸術文化センター

#### 北陸・中部

#### ●長野県上田市

上田市立美術館  
〒386-0025 上田市天神3-15-15  
Tel. 0268-27-2300 清水  
<https://www.santomyuze.com/museum/>

#### 石井鶴三 立体の美

46年もの間「上田彫塑講習会」の講師として指導・研究を重ね、信州の美術と教育に強い影響を及ぼした石井鶴三が「凸凹の美、形の美、立体の美」追求の末にたどり着いた成果、その渾身の作品の魅力に迫る展覧会。今回は彫刻にスポットを当て、上田市立美術館ならではの作品を中心に一挙に展示する。

[日程] 1月4日～2月12日

[会場] 上田市立美術館

#### ●岐阜県多治見市

岐阜県現代陶芸美術館  
〒507-0801 多治見市東町4-2-5  
Tel. 0572-28-3100 花井素子  
<http://www.cpm-gifu.jp/museum/01.top/index1.html>

#### 開館15周年記念展 1964 証言—現代国際陶芸展 の衝撃

1964年、東京オリンピック開催を機に各地を巡回した現代国際陶芸展では、日本で初めて世界各国の陶芸が一堂に集められ、当時「日本陶芸の敗北」とも評されるほどの衝撃を日本の陶芸界に与えた。本展では海外陶芸から刺激を受けた日本陶芸の1960年代に注目し、

現代国際陶芸展が与えた影響を検証するほか、欧米各国を旅し作品を集めた陶磁器研究家・小山富士夫の旅の記録も紹介する。

[日程] 2017年11月3日～1月28日

[会場] 岐阜県現代陶芸美術館



ピーター・ヴォークス《陶彫》(1963年/京都国立近代美術館蔵)  
©Voulkos Family Trust

#### ●岐阜県美濃加茂市

美濃加茂市民ミュージアム  
〒505-0004 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1  
Tel. 0574-28-1110 可児・藤村  
<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

#### まちのいいもの よいところ —山之上一展

美濃加茂市の山之上一町という地域に焦点を当て、これまで生活の中で残されてきたモノたちを丁寧にとらえ、まちの歴史や文化、民俗、自然を再発見するため、市民と一緒に調査を実施。そうした資料と一緒に、そのモノたちから見てきた写真や文書などの記録や、そこに暮らす人々の記憶としての言葉を掘り起こし、地域博物館として展示をする。

[日程] 2017年12月9日～1月28日

[会場] 美濃加茂市民ミュージアム

#### ●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団  
〒440-0887 豊橋市西小田原町123  
Tel. 0532-39-8810 高田装子  
<https://www.toyohashi-at.jp/>

#### ミュージカル『ナイン・テイルズ ～九尾狐の物語～』

過去に穂の国とよはし芸術劇

場PLATで開催された市民参加型音楽公演で音楽監督を務めた宮川彬良の作曲による新作ミュージカル公演を、開館5年記念事業として開催。ミュージカル界きっての実力俳優たちを迎え、美しく力強い音楽とともに、千年を生き九つの尾をもつ伝説の狐・九尾狐(クミホ)と人間の究極の愛を描く。製作にあたってはクラウドファンディングも行われ、その実施計画から運営に至るまでが愛知大学経営学部太田ゼミとの協働で行われた。

[日程] 1月20日、21日

[会場] 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

#### 近畿

#### ●大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター  
〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-2  
Tel. 06-6864-3901 嶋崎徹  
<http://www.toyonaka-hall.jp/>

#### 開館1周年記念 オペラ・ガラ・コンサート

プロオーケストラ(日本センチュリー交響楽団)が指定管理者として加わって運営する当センターが、開館1周年を記念して開催するオペラ・ガラ・コンサート。新国立劇場のオペラ芸術監督である飯守泰次郎の指揮の下、ソプラノ歌手の中嶋彰子、中村恵理らがソリストを務め、モーツァルトのオペラとフランス・イタリアのオペラから厳選した曲目を披露する。

[日程] 1月7日

[会場] 豊中市立文化芸術センター

#### ●大阪府富田林市

富田林市文化振興事業団  
〒584-0084 富田林市桜ヶ丘町2-8  
Tel. 0721-25-0222 辻野文崇  
<http://subaruhall.org/>

すばるショパンフェスティバル

## ▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

日本最大級の規模を誇るピアノ・コンクール「ビティナ・ピアノコンペティション」の入賞者と今野尚美、酒井有彩によるショパンのピアノ作品の演奏会。1日目は9名のピアニストによるピアノ独奏作品のマラソン・コンサート(全26曲)。2日目はロマン派のピアノ協奏曲(3曲)を演奏する。  
[日程] 1月20日、21日  
[会場] すばるホール

### ●神戸市

神戸アートビレッジセンター  
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14  
Tel. 078-512-5500 竹下士敦  
<https://www.kavc.or.jp/>

#### コンテンポラリーダンスのためのメソッドワークショップシリーズ vol.3 岡登志子ダンスワークショップ

コンテンポラリーダンスで、あまり語られなかった実践されることが多くないメソッドに着目したシリーズのワークショップ。定期的に継続して行うことを一つの目的とし、本年度3回目となる今回は、神戸を拠点とするダンサー・岡登志子を講師に迎え開催する。メソッドによって、身体を動かすための動機を見つめ直し、身体と向き合うことでさまざまな表現の可能性を探る。初心者でも参加可能で、1日3時間のワークショップを3日間行う。  
[日程] 1月19日～21日  
[会場] 神戸アートビレッジセンター

### ●兵庫県篠山市

兵庫陶芸美術館  
〒669-2135 篠山市今田町上立杭4  
Tel. 079-597-3961  
<http://www.mcart.jp/>

#### 兵庫県政150周年記念事業「ひょうごの古陶めぐり—瀬戸内・淡路—」

美術館が所蔵する2,126件の作

品より、江戸時代後期から大正時代にかけてつくられた代表的なコレクション96件を紹介。「瀬戸内」の朝霧《色絵段替文手桶形花入》(文政8(1825)年箱書)や、「淡路」の淡陶社《三彩皿》(明治・大正時代)など、そのうち72件が新収蔵作品で、現在では知られていない産地のやきものまで、各地の特色ある技法とともにめぐる。  
[日程] 2017年12月9日～2月18日  
[会場] 兵庫陶芸美術館



朝霧《色絵段替文手桶形花入》  
文政8(1825)年箱書  
兵庫陶芸美術館所蔵

### 中国・四国

#### ●岡山県真庭市

真庭エスパス文化振興財団  
〒719-3214 真庭市鍋屋17-1  
Tel. 0867-42-7000 井尾祥子  
<http://kuse-espace.jp/>

#### エスパス管弦楽団 ニューイヤー・コンサート2018

2002年に結成して以来、地域で活動を続けているエスパス管弦楽団のニューイヤーコンサート。V.ヤングの『80日間世界一周』やクラシックの名曲をオーディションによって選ばれた県内在住の6人の幼稚園児・小中学生がオーケストラをバックにソリストとして演奏するステージもあり、誰もが楽しめる演奏会を目指す。  
[日程] 1月28日  
[会場] エスパスホール

●愛媛県新居浜市  
新居浜市美術館

〒792-0812 新居浜市坂井町2-8-1

Tel. 0897-65-3580 井須圭太郎  
<http://ncma-niihama.info/>

#### 新居浜市市制施行80周年記念事業—新居浜美術の新時代と住友— 小磯良平・オリゾン洋画研究所再考

戦前から戦後にかけて日本の洋画界を牽引してきた神戸出身の画家・小磯良平(1903～88)の画業と、小磯に薫陶を受けた新居浜の洋画家・西澤富義(1915～74)、そして西澤の率いたオリゾン洋画研究所の作家と活動を3部構成で紹介。神戸以外では初公開となる超大作《働く人びと》をはじめ、およそ100点の作品資料から、新居浜と神戸という2つの「コウト(工都・港都)」の美術交流を振り返る。  
[日程] 2017年12月9日～1月21日  
[会場] 新居浜市美術館

### 九州・沖縄

#### ●福岡県田川市

田川市美術館  
〒825-0016 田川市新町11-56  
Tel. 0947-42-6161 大庭ほなみ  
<http://tagawa-art.jp/>

#### アーティストの反骨精神 「沸点の現象」

筑豊・田川という地域で炭鉱時代に過酷な労働を強いられた人々の“反骨精神”をテーマにした展覧会の第2弾。このテーマのもと制作された新作も多く含まれ、絵画や映像、インスタレーションなど、九州にゆかりのある作家のさまざまなジャンルの作品を紹介する。  
[日程] 1月7日～2月4日  
[会場] 田川市美術館

#### ●沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館  
〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1

Tel. 098-941-8200 玉那覇英人  
<http://www.museums.pref.okinawa.jp>

#### 美術館開館10周年記念展 『邂逅の海—交差するリアリズム』

開館10周年企画として、“交流”をテーマに開催される2本立ての展覧会。「彷徨の海」展では、歴史的な観点で沖縄と台湾の美術の動向を紹介し、「邂逅の海」展では沖縄・台湾の美術表現の多様性を紹介する。沖縄と台湾が亜熱帯地域であることから、“まもる”“のこす”をテーマにした映像アーカイブの上映や、“つなぐ”“みせる”をテーマとしたシンポジウムを開催する。  
[日程] 2017年12月19日～2月4日  
[会場] 沖縄県立博物館・美術館

### ●沖縄県浦添市

浦添市文化芸術振興事業実行委員会

〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1  
Tel. 098-876-1234 大浜暢明  
<http://www.tedakohall.jp/>

#### ミュージカル『尚寧王～アオリヤエ尚寧王妃の詩～』

浦添城跡(浦添ようどれ)に眠る琉球王国第二尚氏王統第7代尚寧王を題材に創作した市民参加型ミュージカル。受難の王として有名な尚寧の生き様をダンスや合唱でドラマチックに描き出す。小学5年生から大人までの市民75人が練習の成果を舞台で披露する。  
[日程] 1月27日、28日  
[会場] 浦添市てだこホール



前回の公演(2016年10月)

# 共感をいかに集めるかがポイント

制作基礎知識シリーズ Vol.42

## 地域振興におけるクラウドファンディングの可能性

講師 山名尚志  
(株式会社文化科学研究所代表)

クラウドファンディングとは、インターネットを利用して、世界中の人々から直接資金を集める仕掛けのこと。今、このクラウドファンディングを地域振興に利用しようという動きが次第に広がりつつある。

今回は、このクラウドファンディングの仕組みと、その地域振興への応用のあり方について説明する。

### ●クラウドファンディングとは

クラウドファンディングは、通常、クラウドファンディングの事業者が展開するウェブサイトを通じて行われる。資金を集めたい側は、資金調達をしているプロジェクトや事業などをそこに登録。資金を出す側は、サイト上で好きな相手先を見つけ、クレジットカード支払や他の電子決済手段を用いて資金を出す、という流れになる。

集め方としては、予め決まった金額を設定し、期限内(60~90日程度が多い)にそれを上回る金額が集まらなかったらファンディング自体がなくなる(出した資金は出し手側に全額戻す)オール・オア・ナッシング型と、集まらなくてもファンディングおよび事業自体は実施されるオール・イン型の2つの方式がある。後者については、クラウドファンディングで十分な金額が集まらなくても事業実施ができるという事前の保障が必要となる。

クラウドファンディングのサービスには大きく2つの類型がある。第一の類型は、未上場株式の購入をするもの(株式型)、ファンドをつくって投資するもの(ファンド型)、貸金業法に基づき融資として行うもの(貸付型)など、小口の金融商品をネットで提供するサービスである。このタイプのクラウドファンディングを行う事業者は、金融商品取引法に基づいた業者登録が必要となる。

第二の類型は、金融商品としての利益追求を目的としないもので、基本的に全額リターンがない寄付型と、サービスや商品などのリターンがある購入型の2つに分けられる。例えば、震災で損傷した建造物の復興資金を集める

ためのクラウドファンディングを行い、寄付者については、名前を復興した建造物の銘板に記載するだけ、というのは寄付型。同じ復興活動でも、災害で発生した流木を利用したグッズの開発プロジェクトを行い、支援者には出来上がったグッズをリターンとして渡すというのは購入型となる。

ただし、上記の例でもわかるように、寄付型と購入型との間に明確な差があるわけではない。実際には、リターンが寄付金額に見合った商品やサービスに「見えるか」どうかでのグラディエーションがあるだけと捉えたほうがわかりやすい。中には寄付金の税額控除がある案件もあるが、それも寄付型のクラウドファンディング事業者だから税額控除があり、購入型の事業者だからない、ということではなく、その事業者を通じてクラウドファンディングで実際に資金調達をしている事業者が、特定公益増進法人や認定NPO法人、自治体など、税額控除の対象となる団体であるかどうかで左右される。ちなみに、こうした第二のタイプのクラウドファンディングについては、第一の類型とは異なり、サイトを運営する事業者を規制する特別の法律はない。

### ●地域振興とクラウドファンディング

地域振興、特に公立文化施設が関係するような地域貢献事業という観点から見た場合、中心となるのは、上記でみた第二の類型、寄付もしくは購入型のクラウドファンディングである。例えば、「地域でアートフェスティバルを実施し、その資金をノベルティ付きの特別チケットの予約販売で賄いたい」といったプロジェクトであれば、購入型での実施となる。あるいは、「地域の歴史的建造物の保全費用を集めるのだが、参加者には、礼状を出し、建造物の銘板に名前を記載するだけで、特に何か物品を渡すわけではない」といったプロジェクトであれば寄付型ということになる。実際、日本におけるクラウドファンディングの大手である「Readyfor」や「CAMPFIRE」では、こうしたプロジェクトが多く実施されている。

◎Readyfor(レディーフォー)  
<https://readyfor.jp/>



◎CAMPFIRE(キャンプファイヤー)  
<https://camp-fire.jp/>



また、「FAAVO」という地域振興プロジェクトにのみ焦点を絞ったクラウドファンディングサイトも運営されている。

では、どうすれば地域振興のプロジェクトに必要な資金を集められるのだろうか。ともかく事業者のウェブサイトに登録して待っていればいいのだろうか。残念ながら、物事はそれほど甘くはない。クラウドファンディングの事業者のサイトには、そのプロジェクトに共感した人がお金を支払うためのシステムは実装されているものの、サイトに掲載しただけで、購入や寄付をしたい人が山のように集まる広報や宣伝の力をもっているわけではないからだ。実際のところ、広報については、主役はサイト側ではなく、あくまでお金を集めようとしている登録者側にある。ここでいかに自努力ができるかで成否が決まってくる。

もちろん、サイトが全く宣伝の役に立たないわけではない。一般に、寄付金集めを成功させるためには、まずは知人・関係者で最初の3分の1を確保し、次に知人の知人で3分の1、最後に全く知らない人で残りの3分の1を集めるのがいいとされている。クラウドファンディングでの資金調達も同様であり、最初の3分の1は、ほとんどの場合、自力で集める必要がある。

サイトが宣伝に役立つようになるのは次の3分の1からである。クラウドファンディングのサイトには、プロジェクトを単に紹介するだけでなく、どうプロジェクトが進んでいるのか、誰が協力してくれているのかを、SNS等と連携して、リアルタイムに発信する機能が備えられている。また、既にプロジェクトに参加した人の生の声を伝えていくコーナーもある。こうした機能を最大限に活用することで、参加してもらった知人や関係者が、さらにその知人や関係者に効率的に「協力してほしい」というメッセージを伝えることができる。こうした動きがさらに力強くなっていけば、最後の3分の1、全く知らない人までも巻き込んでいくことが可能になる。

とはいえ、こうしたサイトのシステムを活用

し、多くの人を巻き込んでいく役目を負っているのは、あくまでプロジェクトの登録者側だ。サイト側にもキュレーターと呼ばれるお世話係がいて資金調達の成功に繋がるプロジェクトの立て方や運営の仕方を教えてはくれる。しかし、主役はどこまでいっても登録者側。登録者が、どこまで人々の共感を得られるプロジェクトをつくれるか。その後、どれだけ熱意をもって周囲の人を巻き込めるか。この努力こそがファンディングの成功の決め手となる。

### ●自治体施設とクラウドファンディング

クラウドファンディングの主体となるのは、地域のNPOや企業だけではない。2014年、内閣府では、地方創生を図る一助として「ふるさと投資連絡会議」を立ち上げ、全国の自治体にクラウドファンディングの活用を呼びかけた。この結果、今では、クラウドファンディングを検討する自治体も増えてきている。自治体が地域の団体のクラウドファンディング利用を支援・後援している場合もあるし、自治体自身が、ふるさと納税の枠組みと連携させて、主体となっている場合もある。

クラウドファンディングの原型は、1997年、イギリスのロックバンドのファンたちが、そのバンドの全米ツアーの資金をファン自らの手でインターネットを通じて集めたことに溯るとされる。その後も、各種の文化イベントや音楽、演劇、映画、アニメなど、文化関連のファンディングの成功例は極めて多い。文化芸術活動は、人々の共感を集めやすいという点で、そもそもクラウドファンディング向けなのである。

このことを踏まえるなら、自治体の文化セクション、あるいは地域の公立文化施設は、クラウドファンディングによる地域振興のひとつの主役ともなりうる。幅広い人々から大きな共感を獲得し、地域のみならず、全国、世界を巻き込む事業の実施手段として、クラウドファンディングを積極的に検討してみたいかがだろうか。

◎FAAVO (ファアボ)  
<https://faavo.jp/>



## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 神奈川県横須賀市 横須賀芸術劇場 よこすか能 観世喜正プロデュース 蠟燭能「唐船」



上：狂言「茶子味梅」(野村万作)  
下：蠟燭能「唐船」(観世喜正)  
写真提供：横須賀芸術文化財団

#### ● よこすか能 観世喜正プロデュース 蠟燭能「唐船」

【会期】2017年12月2日  
【会場】横須賀芸術劇場 大ホール  
【主催】公益財団法人横須賀芸術文化財団  
【曲目】素謡「神歌」(永島忠彦ほか) / 仕舞「楊貴妃」(観世喜之ほか) / 仕舞「昭君」(小玉三郎ほか) / 狂言「茶子味梅」(野村万作ほか) / 蠟燭能「唐船」(観世喜正ほか)

\*1 観世喜正(かんぜ・よしまさ) 観世流シテ方能楽師。1970年生まれ。矢来観世家当主・三世観世喜之の長男。97年に同世代の能楽師と共に演能グループ「神遊(かみあそび)」を立ち上げ、芸を磨くとともに能を次代へ繋いでいくためのさまざまな試み(徹底解剖能ワークショップ、もっとわかる能楽講座、蠟燭能など)を行い、若いファンを開拓(2016年に20周年50回で終了)。生家の矢来能楽堂でも解説付き演能や初心者を対象にした謡、仕舞のグループレッスン、タブレットによる字幕解説など能楽の普及に取り組む。

\*2 日本に抑留され、日本人妻と二人の幼子と暮らす唐人・祖慶官人を、故国に残してきた二人の息子が船を仕立てて迎えに来る。幼子と連れて行くことに反対していた領主も最後には折れ、5人揃って船に乗り、喜びの中、帰国の途につく。

\*3 故国に残した妻恋しさに「チャサンバイ」と意味不明なことを口走る唐人の夫と日本人妻とのコミカルなやりとりを描いた和泉流狂言。

能楽、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎がユネスコの無形文化遺産に登録され、公立ホールにおいても古典芸能への取り組みが改めて問われている。そうした中、2005年から観世喜正(\*1)をプロデューサーに迎えた普及事業「よこすか能」に取り組んでいるのが横須賀芸術劇場だ。目玉は毎年異なる演目を取り上げ、200本以上の本火の蠟燭を灯して行う蠟燭能で、今年には能『唐船』(\*2)が上演された。12月2日、その模様取材するとともに、後日、矢来能楽堂でプロデューサーにインタビューを行った。

よこすか能は、能の代表曲『翁』を謡だけで上演する「神歌」に始まり、プロデューサーによる事前解説、面・装束を着けない仕舞、狂言、そして火入れ式の後の蠟燭能を行うのが定番となっている。普及という点で注目されるのが、シテ方自らが行う心の通った解説だ。

今回は日中関係がテーマであること、妻子を残して中国から連れてこられた唐人と日本の妻子との悲喜こもごもを描いた能と狂言を上演すること、人間国宝の野村万作が唐人になる『茶子味梅』(\*3)は至芸であること、中国で買い集めた布地で作った異国情緒のある装束を着けていること、『唐船』では下手に2本の橋掛かりを設けて日本と唐土、陸と海に見立てる新演出を行うこと、初の字幕付き上演に挑戦することなど、初心者にもリピーターにも届く解説が行われていた。

蠟燭能では、夜を思わせる青いソックライトが舞台を彩る中、約1,000人の観客を幽玄の世界に誘うように1本、1本蠟燭に火が灯されていく。能が始まると照明が適度に明るくなり、上手に吊るされた電光文字盤に詞章や場面の説明が映し出された。

そもそも横須賀は、海軍の関係者や物資を扱っていた会社の経営者などに仕舞や謡の愛好家が多く、地元の謡曲連盟や能楽連盟が盛んに活動していた。そこで1987年、横須賀市制80周年を記念して立ち上げたのが、港が見渡せる三笠公園を会場にした「よこすか薪能」だった。94年、横須賀芸術劇場が開館したのを機に

会場を大ホールに移し、「よこすか能」に衣替え。2005年、祖父の代から横須賀と所縁のあった観世喜正が正式にプロデューサーに就任。現在の蠟燭能をスタートした。喜正は次のように話す。

「ここは国立能楽堂の3倍近い規模があり、舞台技術の方と綿密に打ち合わせをした。音響はPAを入れ、蠟燭だけでは暗いので風情は残して必要な照明も入れている。2016年の酒呑童子(身長2丈の鬼)役では、シテ方の背後に6メートルの影を出してもらった。そういうホールならではの趣向もやっている。蠟燭能は、暗いので観客の集中力が増し、音に非常に敏感になる。しかし、古典なのでわからない決まり事や聞き取れないセリフもたくさんある。それで多少のお役に立てればと、今年ついに字幕を入れた。実は、矢来能楽堂では以前からタブレット端末を使って文字情報を流す試みをしてきた。イヤホンガイドは、音漏れするため静寂でなければならない能には向かない。今後の外国人への対応を考えても、タブレットなどで情報を提供することをもっと積極的に行う必要がある。ちなみに来年2月には矢来能楽堂で『土蜘蛛』『紅葉狩』などの見所を構成してナレーションで繋ぐオムニバス能「聖剣伝説」を上演する。海外の観光客に能を観てもらいたいなら、こういう工夫もあっていいのではないかな。これまでは師匠が許可してくれないというところでは止まっていたが、もちろんそれはベースを守るためには大切なことだが、今では『あ、これもあっていいんじゃない?』と思われるお客様が出てきた。客層が謡や仕舞を習い事にしていただいていた方から少しずつシフトしてきているように思う」

蠟燭能も12年となり、次の一手として今後は子どもたちへのアプローチを強化したいという。横須賀芸術劇場の事業担当・芦川伸久さんは、「小学生向けの能のワークショップは、定員をオーバーするほど関心が高い。また土地柄、外国人の子どもたちも多く、国際色豊かな場所でもある」と言う。「能の国際化ということではないが、横須賀でそういう種まきができるかもしれない」と笑った観世喜正の言葉が印象的だった。(編集部：坪池・宇野)